

# 全国万引実態調査報告書

平成 18 年 3 月

財団法人 社会安全研究財団

委託先 特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

## 小売業調査の要約

メッセージ1: 年間の万引被害件数は、直近年度で回答小売業の平均が285件。ホームセンター・カー用品、総合ディスカウント、スーパー、その他専門店、書籍・文具、生活協同組合、医療品(ドラッグストア等)などの平均件数が多い。

メッセージ2: 確保した(捕まえた)万引犯の男女内訳は男性 55.4%、女性 42.2%、性別不明 2.4%。スポーツ用品、家電製品、楽器・CD、書籍・文具などの業態で男性比率が高く、服飾・服飾雑貨、婦人・子供服、医療品、百貨店などで女性比率が高い。

職業別には「無職」24.1%、「主婦」21.6%、「社会人」15.6%など。青少年は 25.6%と計算される。服飾・雑貨、その他専門店で「高校生」の比率が高いなどの特色がある。

単独犯が 8 割を超え、圧倒的に多い。

確保は保安警備員が 9 割を占めるが、書籍・文具では「自社の従業員」が確保している比率が 3 割弱ある。

メッセージ3: 年間売上げに対する不明ロス金額の構成比は、直近年度で平均 0.97%。生活協同組合(3.18%)、書籍・文具(1.77%)、服飾・服飾雑貨(1.54%)、靴(1.39%)などの業態の構成比が高い。

メッセージ4: 不明ロスの中で万引被害と推定される金額の比率は業態別に大きく異なり、「50%以上」とするものの比率が高い楽器・CD、書籍・文具、逆に「30%未満」とするものの比率が高い百貨店、時計・めがね等、様々である。万引被害以外の不明ロスの中には、従業員による不正(いわゆる「内引き」)、流通過程における盗難・減耗等が含まれ、万引被害(いわゆる「外引き」)対策だけでは問題が解消しない。

メッセージ5: 万引被害の増減傾向は、1 年前比較で「増加」28.0%、「減少」17.0%。3 年前比較では「増加」30.1%、「減少」17.0%。5 年前比較では「増加」29.4%、「減少」17.5%である。

メッセージ6: 万引被害の多い商品の一般的特徴は「高額品」、「商品形状がコンパクト」、「商品管理が手薄勝ち」、「中古市場が存在する」といったところ。

例示をすればドラッグストアの「高額化粧品」、ホームセンター・カー用品の「電動工具」、書籍・文具の「コミック」、楽器・CD の「DVD ソフト」、コンビニ・ミニスーパーの「ガム類」、スーパーの「靴下」等である。

メッセージ7:最近の万引犯罪の原因として最も多く挙げられているのが「万引に対する犯罪意識の欠落」(68.9%)。次いで「店舗の大型化」、「従業員の防犯意識の低下」、「長引く経済不況」などとなっている。業種別に大きな違いが見られ、ホームセンター・カー用品、百貨店、家電製品、靴では「店舗の大型化」がトップ、書籍・文具では「中古ショップの増加」が圧倒的である。また、家電製品、スポーツ用品等で「インターネットオークションの出現」を挙げるものが多い。

メッセージ8: 回答各社で万引被害を減少させた要因としては、「防犯カメラを増やした」がトップ(32.5%)。次いで「店内レイアウトを改めた」、「万引防止装置を導入した」である。

メッセージ9: 万引犯罪を発見した場合の処理としては、「全件警察に通報。学校・家庭にはケースバイケース」が 47.1%でトップ。「全件警察・学校・家庭に通報」とするものは被害の多い書籍・文具、楽器・CD等の業態に多い。

メッセージ10:回答小売業の7割弱が万引犯罪に関して「青少年の健全育成の面からさせてはならない」としている。これに次いで「経営上大きな影響を蒙るので対策すべき」の 57.3%である。

メッセージ 11: 回答小売業が店舗で実施している万引防止対策としては「お客様に対する声掛け」81.8%、「防犯カメラの設置」73.3%が双璧。業態別に対策の特徴がある。

メッセージ 12: 各社が万引防止のために実施している従業員教育としては「朝礼で取り上げさせる」40.0%、「万引防止マニュアルの作成・配備」33.5%、他に「人事評価に反映」18.9%というものもある。

メッセージ 13:回答小売企業は少年の万引犯罪防止はどこが主体となるべきと考えているかに関しては、「家庭」が 81.6%で圧倒的、次いで「学校」67.0%である。これに対して成人の万引犯罪に関しては「警察」66.7%、「小売業」61.9%である。「社会全体」は 41.3%、「地域社会」は 23.8%にとど

まる。

メッセージ 14: 回答小売業で過去にあった特徴的な万引犯罪事例としては、(1) 犯人の属性別に、①外国人による犯罪、②高齢者、職人、暴力団関係者等への拡大、③病人、④その他(「家族万引」など)が挙げられている。また、万引犯の手口別には①自動車を使ったチームプレー、②いわゆる「カゴ抜け」、③「履き替え、重ね着」、④その他(ヒッカケによる慰謝料請求事案等)。さらに対象商品別には「高額」、「コンパクト」、「換金性に富む」等の特色が挙げられている。

メッセージ 15: 回答小売業が万引犯罪を減らすために有効な方法として挙げる対策は、ハード面では「棚・ゴンドラの低層化」、「店内の整理整頓」、「清潔感・照明のルクスのアップ」等。ソフト面では「お客様への声掛け」の他、「活気ある売り場が万引を抑制する」、「隣接店・近隣店との情報共有」などが挙げられている。

メッセージ 16: 回答小売業の各方面への要望事項としては、まず警察に対しては、「通報ルール・処理ルールの標準化」を挙げるものが大変多い。また「万引は微罪だという意識を早く捨ててほしい」とするものがある。次に行政に対しては、「窃盗罪の罰則強化」を挙げるものが多い。さらに「防犯ボランティア 2 万団体時代」を迎えて、その活動基盤整備を求める声も多い。

次に学校に対しては教職者と地域社会との連携強化、警察との連携による「万引防止教室」の開催を勧める声がある。

終わりに家庭に対しては万引犯罪防止に果たす家族の役割の重さに鑑み、家庭教室をあきらめないでほしい、との声がある。

## 目 次

第1章	全国万引実態調査について	1
	(1)調査の背景	1
	(2)調査の目的	1
	(3)調査内容	1
	(4)調査実施の枠組み	1
	(5)調査対象	2
	(6)調査の経過	3
第2章	調査結果	4
1.	回答企業	4
	(1)業態別分布	4
	(2)店舗数、年商、決算月の分布	4
2.	万引犯罪被害の状況及び傾向	5
	(1)直近決算年度の万引犯罪被害件数	5
	(2)確保した万引犯の人数	5
	(3)男女別内訳	6
	(4)職業別内訳	6
	(5)単独犯・複数犯別内訳	9
	(6)確保を実行した者の内訳	9
	(7)年間総売上げに対する不明ロス金額の構成比	11
	(8)不明ロス金額の算出方法	13
	(9)不明ロスの中で万引被害と推定される金額の比率	13
	(10)万引被害金額の増減傾向	15
	(11)万引被害件数の多い商品	17
	(12)最近の万引犯罪の原因と考える要因	17
	(13)当社で万引被害を減少させた要因	19
3.	万引犯罪発見後の処理	20
	(1)当社の基本的な処理方針	20
	(2)基本的な処理以外の処理基準	20
4.	万引犯罪の防止策	22

(1)万引犯罪への基本的な考え方	22
(2)各店舗で実施している万引犯罪防止策	23
(3)万引犯罪防止のために実施している従業員教育	24
(4)少年の万引犯罪防止はどこが主体となるべきか	25
(5)成人の万引犯罪防止はどこが主体となるべきか	26
5. 過去にあった特徴的な万引犯罪事例	27
6. 万引犯罪を減らすために有効な方法	28
7. 警察・行政・学校・家族等への要望事項	29
付・調査票	31